

首座主教会議コミュニケ（2020年11月）

アングリカン・コミュニオン、41管区のうち37管区の首座主教および上級代表者による会議がオンラインで開催されました。2020年11月5日と6日の2回、合計5時間に及ぶビデオ会議通話でした。

初日は、世界的なパンデミックとその直接的・間接的な影響、とりわけ、コミュニオン各管区の社会的、経済的、健康的、情緒的状况に与える影響に焦点を当てました。

会議は、先日、召された元パプアニューギニア首座主教のアラン・ミギ大主教を覚えて、悲しみと感謝の祈りから始まりました。

私たちは、世界保健機関（WHO）のマイケル・ライアン博士とシルヴィ・ブリアン博士のプレゼンテーションを受け、大変感謝しています。ライアン博士はこのような記憶に残る発言をされました。「疫病とは、コミュニティの事柄である。コミュニティが伝染病を止めるのだ」。それゆえに、彼らは良い共同体の構築に尽力している宗教指導者たちと共に熱心に取り組むことを望んでいます。

ブリアン博士のプレゼンテーションは、パンデミックの状況とワクチンの進展、ウイルスの客観的な浸透状況と制御をめぐる課題についての見事な説明でした。彼女は"infodemic"、つまり、ウイルスとワクチンについての不確かな情報が大量に拡散されてしまう現象の疫学についてとりわけ明確に語りました。首座主教たちは、WHOと協力して、良質で正確な健康情報を提供するための努力をこれまで以上に強めることを決意しました。

約45分に及んだ質問に対しても、ブリアン博士は明晰性と謙虚さをもって答えてくださり、聞いた者すべてが心から感謝しました。首座主教会議は、世界のために奉仕してくださっているWHOに深い謝意を、彼女を通して表明しました。各管区内で、またグローバルの双方で、互いに協働する機会があることは明白です。首座主教たちは、ワクチンを開発している国の政府に対し、WHOと緊密に協力して、富裕層ではなく、最も弱い立場にある人たちに、公正かつ公平な配分を確保するよう、訴えます。

WHOの発表と質問の後、世界各地のパンデミックの影響について、各首座主教から地域別の報告を受けました。驚くべきことに、世界のさまざま異なる場所で、強い類似性が見られました。健康面以外に、最も重要な関心事は、雇用の喪失、飢餓、教育の喪失に代表される経済的影響と、将来への見通しについてでした。家庭内暴力は、世界のあらゆる地域を悩ませている隠れた流行病です。

各地の報告はまた、諸教会がこの課題に立ち向かっていることをも示すものでした。キリストの召しに従う中で、彼らは善き羊飼いであり、安定性、教育、愛と希望を失った人々をどこまでも探し求めるのです。そこに、私たちは聖霊の働きと、神の国のしるしを見て、喜びました。しかし、まだまだ多くのことが必要とされています。多くの国では、新型コロナウイルス感染症は、多くの疫病の内の一つに過ぎません。その疫病には、紛争、残虐、汚職、環境破壊、自然災害などが含まれます。私たちは、言葉と行いにおいて、イエス・キリストの福音を宣べ伝えるという召命を実際に生きることを決意しました。

2日目は、アングリカン・コミュニオン・セーフチャーチの内部の諸問題に焦点を当てました。

アングリカン・コミュニオン・セーフチャーチ委員会の、ガス・ブレイク委員長から発表を受けました。彼は、私たちの教会を安全なものにする責任があることを思い起こさせてくれました。特に子どもたち、若者たち、弱い立場にある大人たちの安全です。私たちは、アングリカン・コミュニオン・セーフチャーチ憲章と、前回の首座主教会議と ACC で採択された諸声明に参加することを確認しました。

ヨーク大主教スティーブン・コットレル博士とウェールズ聖公会ジョン・デイヴィス大主教は、子どもに対する性的虐待についての英国の独立調査(IICSA)報告を発表しました。それは、英国教会とウェールズ聖公会による過ちについて、最近、出版された報告に記載されています。

世界中の多くの首座主教が、セーフガードにおける自分たちの経験を語りました。ある人は、IICSA の報告書を「私たち全員を映す鏡」と表現しました。虐待者は、世界中の教会の目に見えないところに隠れていることがあります。私たちは、教会の指導者たちが、虐待の疑惑を適切に調査し、報告することを妨げる傾向があるのを認めます。

私たちは、被害者と生き残った者に与えた傷と損害を悔い改め、このようなことが将来的に起こるのを防ぐことができるような文化を作ることを約束します。

オックスフォード主教、スティーブン・クロフト主教に参加していただき、新たに ACC で設置が承認された、アングリカン・コミュニオン科学委員会についての説明を受けました。私たちは、委員会の設立を喜ぶと共に、科学と信仰の接点をめぐっての働き、とりわけ、健康、農業、気候変動の諸課題についての成果を期待しています。

ヨーク大主教のスティーブン・コットレル博士は、11月9日(月)に英国教会から出版される、『愛と信仰に生きる』について説明してくださいました。この教材が、英国教会とその教会員が、聖書の文脈の中でのアイデンティティ、セクシュアリティ、人間関係、結婚についての諸問題を議論するのに役立つように設計されたことは特筆されるべきです。

1月にヨルダンで開催された首座会議で、私たちは、アングリカン・コミュニオンの第41番目の新管区として、アレクサンドリア管区の形成を確認しました。この会議には、初代アレクサンドリア管区大主教として、ムニエール・アニス大主教が参加くださいました。

私たちは、アレクサンドリア管区の形成を喜び、そして、ムニエール大主教と新管区の指導者たちが、エジプト政府からの承認を得るために努力なさることを、全面的に支持します。最近出された、アフリカ大陸の首座主教たちからエジプト政府に対して出された書簡を支持し、その中で、エジプト政府が、アレクサンドリア管区を、独立した聖公会管区として承認することを求められたことを歓迎します。

パンデミックは、私たちの組織体が、対面式の会議を行うことを妨げています。予定されていた多くの会議が中止、再設定、もしくは延期となってしまいました。そのうちの 하나가、聖公会の主教たちの、2020年「ランベス会議」であり、それは、2022年に開催されることになりました。

カンタベリー大主教は、ランベス会議に向けての新たなビジョンを語られました。ランベス会議は2022年に開催されますが、その前後には、キリストの体全体としての感覚を構築するための集まりがオンラインで持たれます。

私たちは、18ヶ月間におよぶプレ・ランベス会議としての、「ヴァーチャル・アングリカン・コンGRESS」の計画を歓迎します。そこでは、主教とそのパートナー、青年・成年、信徒・聖職者が、顔と顔を合わせて出会い、コミュニオンすべての者たちが、神の世界における神の教会となるために共に働くこと段階が実現することを願うものです。アングリカン・コミュニオンの4つの器の一つでもある、ランベス会議それ自体が、主教たちの顔と顔を合わせた交わりになります。

この枠組みの中で、私たちは、次回のACCが、2023年初頭に ガーナのアクラで開催されることを確認しました。首座主教たちは、2021年11月にオンラインで再会し、2022年3月には、イタリアのローマで対面式の会合を開催します。

私たちは、ACC常置委員会が、アングリカン・コミュニオン・オフィスの運営上の優先事項の見直しを行い、ケープタウン大主教、タボ・マクゴバ議長の独立したレビュー・グループが準備された報告書を、引き続き検討していきます。

「光は闇の中で輝いている。闇は光に勝たなかった」(ヨハネ1:5)。分かち合う中で、私たちは、キリストの光の強さを何にもまして心に留めることになりました。不正義、貧困、病、残虐な行為、戦争、腐敗、その他さまざまな事柄とのこの世における闘いは、キリストが照らし出される光を通して見つめられなければなりません。教会暦における神の国のこの時にあって、私たちは、天に昇られた主イエスの権威と、キリストの教会のための主の愛と執り成しと、そして、悪を打ち倒すキリストの確かなる勝利を喜ぶのです。神の民が、自らの重荷と必要なるものすべてを神に委ねると共に、神に感謝と喜び、祝福をおささげすることを、勧めるものです。